

勝林寺寺報



入院の体験

入院は、今まで何回も経験していましたが、おおかたの様子は心得ていたつもりでしたが、今回は特別にもいい経験をいたしました。

眼科の六人部屋。

「よろしく願います」と挨拶して、あてがわれたベツにあがると間もなく、その部屋の名主ばあさんが、新入患者のベツを歴訪。

「あなた、どこから」「ご商売は」「奥さんはお元気」「どこからお嫁にきやはったんですか」「お子さんは何人」「どこの学校」などなど。

ひとり一人の戸籍調べが始まります。

「なんでこんなこと調べられるんや。こんな見ず知らずの赤の他人のばあさんに」。

少々ムツツしたり腹立たしかったり。

ところが、その戸籍調べが一巡して、お互いに、やれやれとポツトしたところで、なんだか妙な雰囲気がこの六人部屋にうまれてまいりました。

今まで、全く赤の他人のなかと思っっていましたのに、このおせっかいな名主ばあさんの戸籍調べのおかげで、

「考えてみれば、なるほど赤の他人というものは一人もいないんだ」。

死んだ母の遠縁のかた、わたしの従兄弟のお知り合い。同じ学校での後輩、聞けば同じ戦地にいた戦友などなど。一人として無関係・赤の他人はいないのだということが知らされました。

そうであったからでしょう。十日間の入院中、たがいに親身に助け合い支え合い。そして励まし合う、本当にいい雰囲気の入院生活を過ごさせていただけました。

お釈迦様が悟りになった「縁起の法」。

一人で生きていくのではない、無量無辺、たくさんの人にくたのこの「関係性・関連性」のなかで、この命、あらしめられている。

このいのちのちのちを共に生きようではないか。

これが仏法であったんだよと、思わぬ所でしらせられた、本当にいい縁で御座いました。



秋のお彼岸会

九月二十三日
午後二時

おそろいでお参りください。
八月十六日。初参式がありました。
仏社会長中島武志氏長男孝浩さんの第一子です。今年七月六日生まれ。

祖父 中島武志様 祖母 中島雪枝様
父 中島孝浩様 母 中島利恵様
ばくけは 涼雅くんです。

どうぞ仏の子として育つてと念じ、如来さまのご本願のころのなかに五人のお名前を詠みこんだ漢詩風なものを作りお祝いしました。(かなりな苦吟)

法韻涼雅聲孝浩
威徳大刹恵億劫
聞信一念偃武志
歡喜南萌雪枝香

◇真如の響 すすやかに 如来のよび声 たちからかに

◇おおいなる ほとけの功德は 千億劫末法の世界に 恵をたれる

◇この如来の よび声に めざめた一念 戦わず ともに和平に生きるおもいが沸き

◇恵まれたこのよるこびのなかで

おや まだ雪をかぶった梅の南の枝に すでに春の香が めづいていることを知る

(この世にありながら、真実の世界お浄土へ うまれるにちがいない身としらされる)

九月のこよみ

- 一日 出石組門徒総代研修会 (西宗寺)
- 二日 宮嶋盛義氏宅法事
- 三日 連研中央講師研修会(本山)
- 四日 同日
- 八日 吉祥寺法事
- 九日 布教講座(伝道院)
- 十日 同日・玉日会定例法座
- 十一日 同日
- 十二日 同日
- 十三日 門徒推進員中央研修(本廟)
- 十四日 同日
- 十五日 同日・衣川忠良氏宅法事
- 十六日 同日・十六夜会法座
- 二十一日 高福寺彼岸会法座
- 二十二日 生田俊雄氏宅法事
- 二十三日 勝林寺彼彼出石山云法座
- 二十六日 宮嶋千秋家初参式
- 二六日 みのりを聞く会 (赤穂宝専寺)
- 二七日 同日
- 二九日 湯口長一氏宅法事



